

広報芝浦

SPRING 2026.05



INSTITUTE OF TECHNOLOGY

特集 | 志願者過去最多を更新

入学生女子比率も30%を達成

志願者5万3千人超、入学生女子比率30.8%

広報芝浦 2026.5.29 Vol.59

学校法人芝浦工業大学 入試・広報部 企画広報課
〒135-8548 東京都江東区豊洲 3-7-5 TEL : 03-5859-7070 E-mail : koho@ow.shibaura-it.ac.jp



芝浦工業大学

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927
Tokyo

Shibaura Institute of Technology
100th
Anniversary

100周年記念事業
ご寄付のお願い



X
芝浦工業大学
公式アカウント



Instagram
芝浦工業大学
公式アカウント



YouTube
芝浦工業大学
公式アカウント



TikTok
芝浦工業大学
公式アカウント

広報芝浦

SPRING 2026.05



芝浦工業大学 校友会 シンガポール支部・タイ王国支部 総会を開催

2月27日および28日、校友会シンガポール支部総会ならびにタイ王国支部総会を実施しました。総会では参加者の近況や活動状況を紹介するとともに、卒業生同士および大学関係者との意見交換が行われ、海外における卒業生ネットワークの強化と今後の国際連携の発展に向けた有意義な機会となりました。



04 [特集1]
**志願者過去最多を更新、
入学生女子比率も30%を達成**
志願者5万3千人超、入学生女子比率30.8%

08 [特集2]
学位記授与式・入学式

12 創立100周年記念10回連載
創立者有元史郎の軌跡を巡る

14 SIT Academic Column
**カメラで撮影された空間の“意味”を認識し、
デジタル化するシステムを作りたい**
工学部 先進国際課程 担当/
知能センシングシステム研究室
パトハック・サーサク 准教授

18 しばうら人 卒業生の「今」
**「研究者なんて自分には無理」と思う人に
未来の道筋を示したい**
早稲田大学 理工学術院総合研究所
寺尾 剛史さん
システム理工学部数理科学科 2015年卒業
理工学研究科 修士・博士課程 2020年修了

20 ACTIVE STUDENTS! 活躍する芝浦工大の学生たち
デザイン工学部 デザイン工学科 ロボティクス・情報デザイン系 4年
亀田 羽流さん
女子バスケットボール部
工学部 物質化学課程 環境・物質工学コース 2年 葭内 七海さん

22 SITニュース

(表紙)
SIT賞を受賞した3人

2025年度のSIT賞受賞者の表彰が、学位記授与式で行われました。受賞者の詳細は、24・25ページをご覧ください。

2026 SPRING



INDEX

志願者過去最多を更新、 入学生女子比率も30%を達成

志願者5万3千人超、入学生女子比率30・8%



昭和女子大学附属
昭和高等学校との
連携協定締結
(2022年12月)

2026年度入学者選抜が終了したこの春、芝浦工業大学では2046人の入学生を受け入れた。一般入学者選抜の志願者は、目標としていた4万人を大きく超える53158人。入学生の女子比率も30・8%で、2027年までの目標とする在学生の女子比率30%も目前にきました。芝浦工業大学の、この春の躍進に迫ります。

入学生の3割が女子の工業大学

その先のイノベーションへ

2027年までに在学生の女子比率30%を目標に掲げる芝浦工業大学。入学生の女子比率は年を追って向上しており、この4月に入学した学生では30・8%を占め、昨年の27・8%を超えて過去最多を更新し続けています。合わせて在学生の女子比率も26・5%にまで高まってきました。

本学は2013年の男女共同参画推進室（現DE&I推進室）設立から、さまざまな女子学生・女性教員支援策を積極的に講じてきました。特に働きやすい、学びやすい環境整備も推進しています。「女子学生・女性教職員休憩室」設置や「多機能トイレ（男女共用の個室トイレ）」の整備に加え、2025年8月からは豊洲・大宮キャンパスの女子トイレに生理用ナプキンを設置し、無償で提供を開始しました。



女子トイレの洗面台に設置された
生理用ナプキン

理系進学への後押し

女子生徒のキャリア支援

そのほか受け入れの面では、2018年度入試から工学部の機械・電気系4学科で「公募制推薦入学者選抜（女子）」を開始。2022年度には工学部9学科、2023年度には全学部・学科・課程・コース（工学部先進国際課程を除く）へ拡大しました。現在は「理工系女子特別入学者選抜」として実施し、この選抜を経たこの春の入学者は195人でした。さらに2022年度からは、入学者選抜の成績が優秀な女子入学者100人以上を対象に、入学金相当額の奨学金を給付しています。

また2021年度から山脇学園高等学校との連携協定締結を皮切りに、女子高校との連携を始めました。これまでに2022年3月の同校のほか、昭和女子大学附属昭和高等学校（2022年12月）、実践女子学園中学校高等学校（2023年12月）と続き、さらにこの高大連携事業を拡大するため、2026年3月末に

研究室の学生にサポートを受けながら研究活動を行うサマー・インターンシップ参加者



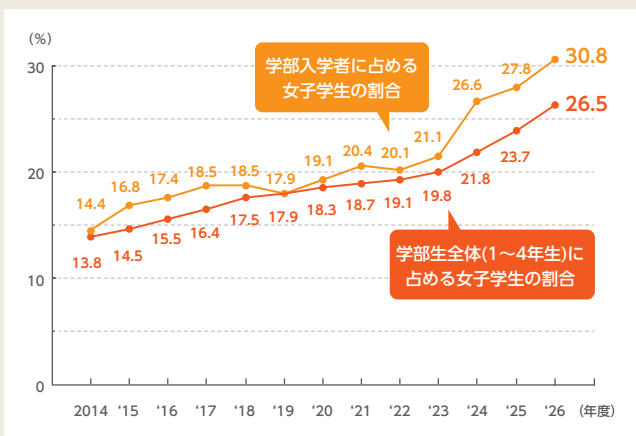
新たに6校と協定を締結しました。今後の締結予定も含めると、締結校数は15校程度になる見込みです。
 加えて、女子高校生を対象としたサマー・インターンシップや、女子中学生を対象としたイベント「理系スイッチON」の開催など、進路選択支援にも積極的に取り組んでいます。

度の46505人を上回って過去最多を更新しました。

この数年、芝浦工業大学の受験者が国立・公立大学と併願するケースが増加している傾向が見られるため、2026年度入試から、大学入学共通テスト利用方式をいわゆる私立専願型である3教科4科目型と国立・公立大学との併願を想定する6教科8科目型に分けて設置しました。その結果、両選抜方式合わせて24965人の志願者（前年度比181.2%）が出願したことから、私立専願受験者、国立・公立大学併願者を含む多様な受験者層を取り込むことができたと考えられます。

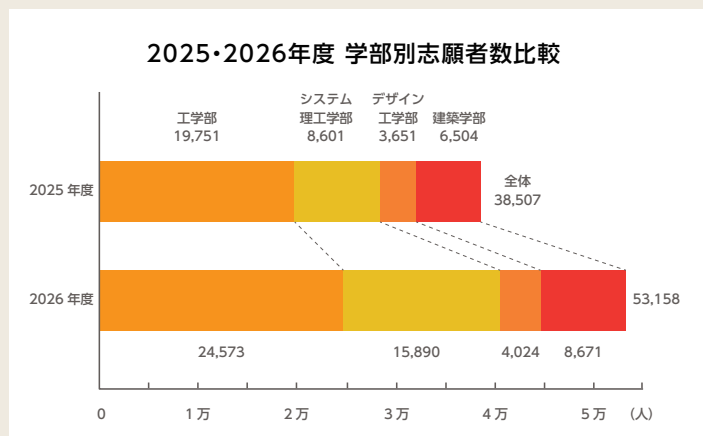
また、2026年4月から分野横断により幅広い専門知識を身に付けることができる「課程制」を導入するシステム理工学部が、前年度比184.7%（7289人増）となりました。同学部は、複雑化する現代社会の課題、融合する分野に対応するため「課程制」を導入し、これまで5学科で展開していた分野横断のシステム工学教育を、5課程11コースで展開することになりました。合わせて2022年に国が示した特定成長分野「デジタル」「グリーン」「Well-being」分野のコースを中心に、485人の入学定員を705人に増やします（220人増）。学部の入学定員は前年度

最終的な男女比率の目標は50%としていますので、女子生徒の進学を後押しし、未来のイノベーションを牽引する人材を育成していきます。



志願者過去最多、5万人超を記録
 2026年度一般入学者選抜の志願者が53158人（前年度比138.0%、14651人増加）となり、2019年

比約1.5倍となり出願できるコース数も増えましたが、それ以上に、志願者数が前年度比184.7%と大幅に増加し、実志願者数でも前年度比114.6%となりました。
 そのほか、建築学部で133.3%（2167人増）、工学部で124.4%（4822人増）、デザイン工学部で110.2%（373人増）としています。



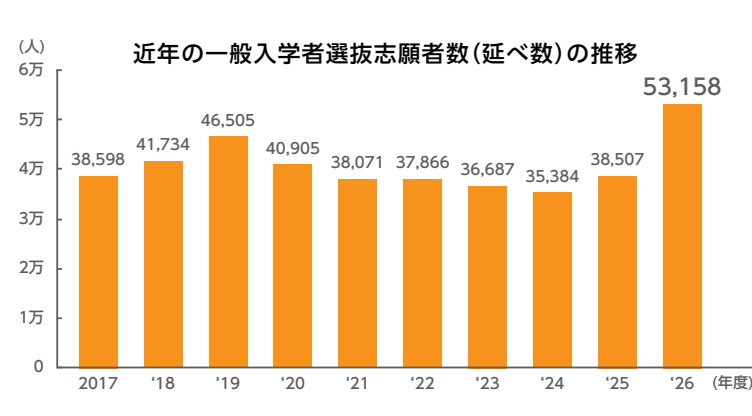
山田純学長コメント



学長 山田 純

今回これだけの志願者数となったのは、本学の強みである「高い就職実績」「グローバル教育」「女子生徒の理工系進学支援」などが本学の認知度や志願度向上に寄与した結果と推察しており、また大学入学共通テスト利用方式に2万人を超える志願をいただいたこ

とは、国立・公立大学を志望する受験生も含めて多くの志願者層に本学が魅力的な進学先として映った証であると考えられています。加えて、システム理工部の人気の高まりは、2024年度の工学部に続けて導入した「課程制」への我々の教育改革に対する期待の高まりと受け止めております



2025年度 芝浦工業大学学位記授与式

3月17日、学位記授与式が東京国際フォーラムで挙行政され、学部・大学院を合わせて2715人が新たな門出を迎えました。式典では、各学部・専攻の総代が壇上に入り、学位記が卒業生に授与され、「創立者元史郎記念賞」「学長賞（グローバル）」ほか在学中に顕著な活躍をした学生の表彰が行われました。

山田純学長による式辞では、学生としての学びを終えた卒業生に向け、「卒業とは、『知識を身に付けた証』ではなく『学んだことを生かす責任を負ったこと』であると述べ、社会では能力そのものではなく、それを何のためにどのように使ったかが問われると強調しました。さらに、現実の社会課題は一つの専門だけでは解決できないとし、異なる専門を結び付けて目的を実現する協働の重要性に言及しました。将来は専門家同士をつなぐマネジメント力も求められるとも述べ、「自身の専門だけにこだわるのではなく、専門によって人と人、分野と分野をつなぐ存在であってほしい」と卒業生の今後の活躍に期待を寄せました。

鈴見健夫理事長による式辞では、社会へ踏み出す卒業生に向け、「経営の神様」と称される松下幸之助の言葉「日々是新」を紹介



介し、万物が変化し続ける中で人もまた日々新しく生まれ変わる姿勢が重要だと述べました。そして、「自分は今もう十分に学んだ」と過去の成功や知識に安住した瞬間に成長は止まると指摘し、社会で求められるのは完成した人材ではなく、成長し続ける人材であると強調しました。また、思いどおりにならない時こそ「新しい自分に出会えるチャンス」と前向きに捉えることが大切だと語りました。さらに、成果の背後には必ず支えてくれる人がいるとして、謙虚さと感謝の気持ちを忘れず、「芝浦工業大学の卒業生は人間性も素晴らしい」と言われる存在になってほしいと激励しました。

学生代表挨拶は、大学院理工学研究科建築学専攻修了の綿引陸さん、工学部情報工学科卒業の小林達矢さんが登壇しました。それぞれの大学生活を振り返るとともに、関わった教職員や仲間、家族への感謝を表明し、今後の進路について決意を述べました。

式典終了後、恩師や共に大学時代を過ごした友人たちと記念撮影する卒業生の姿が多く見られました。別れを惜しみつつ、晴やかな笑顔でそれぞれの道に進む卒業生たちの、今後の活躍が期待されます。

2025年度卒業生数・修了者数(2025年9月卒業含む)

芝浦工業大学	
工学部	1,042人
システム理工学部	451人
デザイン工学部	166人
建築学部	261人
大学院理工学研究科	
修士課程	838人
博士(後期)課程	29人
合計	2,787人

芝浦工業大学附属中学高等学校	
中学校	165人
高等学校	206人

芝浦工業大学柏中学高等学校	
中学校	188人
高等学校	289人

2026年度 芝浦工業大学入学式

4月2日、2026年度芝浦工業大学入学式が東京国際フォーラムで挙行政され、学部・大学院を合わせて3037人の新入生が新しい生活をスタートさせました。

山田純学長による式辞では、今年度新入生の女子学生比率が30%を超えたことに触れながら、本学が多様な人の集う環境を目指す理由を説きました。現代の技術者に求められているのは「社会の中で技術をどう生かすかをデザインする力」であり、社会や社会が直面する課題がますます複雑になる中、大学では専門知識を身に付けることと同時に、複雑な問題を整理していく力を養うことが大切だと述べました。「多様な背景・価値観を持つ人と共に、問題を整理し、答えを模索していく中で目指すべき社会が見えてくる」と語り、新入生がこれからの社会の担い手として、複雑な問題の解決策を考え続けられる人材になることへの期待を示しました。

鈴見健夫理事長による式辞では、「社会に学び、社会に貢献する技術者の育成」という精神のもとで育った十万人を超える卒業生が国内外で活躍していることに触れ、この伝統の新たな担い手として自らの可能性を信じて歩み始めるよう新入生に呼びかけました。ま



た、芝浦工業大学卒業生の先輩として、「良い友人を作ってほしい」「謙虚さと感謝の気持ち大切にしたい」「夢を見つけ、確固たる志を持ってほしい」という3つのメッセージを贈るとともに、「今日この場に立つ皆さんの背後には、ご家族をはじめ多くの方々の支えがあります。その期待に応えるべく、本学での日々を大切に過ごしてください」と新入生を激励しました。

新入生答辞には、大学院理工学研究科博士(後期)課程地域環境システム専攻の本間晴香さん、建築学部建築学科の岩本智希さんが登壇し、新たな環境への期待と決意を語りました。

続いて、磐田朋子副学長より「世界に学び、世界に貢献するグローバル理工系人材の育成」についての説明があり、新入生は大学の取り組みに熱心に耳を傾けていました。

芝浦工業大学校友会 Design 東京フィルハーモニー交響楽団コンサートでは、「ジュラシック・パーク」よりメイン・テーマ、「インディー・ジョーンズ」よりレイダース・マーチ、歌劇「アイダ」より凱旋行進曲などの演奏が披露され、新入生の新たな門出に花を添えました。

2026年度入学者数

芝浦工業大学	
工学部	904人
システム理工学部	717人
デザイン工学部	159人
建築学部	265人
大学院理工学研究科	
修士課程	959人
博士(後期)課程	33人
合計	3,037人

芝浦工業大学附属中学高等学校	
中学校	170人
高等学校	228人

芝浦工業大学柏中学高等学校	
中学校	190人
高等学校	306人



デザイン工学部卒業・修了研究展

3月7日から17日の期間、豊洲キャンパス内元史郎記念校友会館交流プラザと本部棟5・6階オープンラボで、デザイン工学部生と大学院生による卒業・修了研究展「接点」を開催しました。学生がそれぞれの研究成果を展示する場として、「プロダクト」「システム」「UX」など、デザイン工学の広い領域における多様な研究を集め、学生一人ひとりが積み上げてきた探究の軌跡をありのままに展示しました。

来場者はおよそ620人。展示会場内では、学生が制作したオリジナルグッズがもらえる企画やトークラジオの配信、フォトスポットの設置なども行い、授業や研究だけでは抑えきれない好奇心を持つデザイン工学部の学生らしさが存分に表現されたイベントとなりました。

また、期間中には高校生向けイベントとデザイン工学部1・2年生向けのなんでも相談イベント「OSEKAN」も開催。デザイン工学部の雰囲気や就職活動の体験談など、将来に対する不安や悩みを抱えた参加者に「おせっかい」なくらい親身に対応し、さまざまな「接点」が生まれる機会となりました。



建築学部卒業設計展

2月16日から18日の3日間、豊洲キャンパス本部棟9階オープンラボで「Archi Festa 2029」を開催しました。本展覧会は、芝浦工業大学の建設系分野を学ぶ学生が毎年企画・運営している卒業制作展で、今年は建築学部の学生計66人による卒業制作が展示されました。

会場には精巧な建築模型と詳細な解説パネルが並び、一般公開の2日間と審査日を合わせ、約500人の来場者が訪れました。来場者の中には高校生やその保護者も多く見られ、今後の進路や将来を見据える上で、作品一つひとつのレベルの高さに興奮している様子がありました。

最終日の18日は、ゲスト審査員として畑友洋氏(畑友洋建築設計事務所)、山田紗子氏(山田紗子建築設計事務所)を迎え、審査・講評会を実施しました。一次審査は、展示内容のみで評価されるポスターセッション。厳正な選考を通過した7人の学生が二次審査としてプレゼンテーションを行いました。最優秀賞は、地域縮退に伴う神社(ごうじ)の新しいかたちを制作した亀井恵勇さん(猪熊純研究室)が受賞。その他、優秀賞2人、佳作4人もそれぞれ表彰されました。



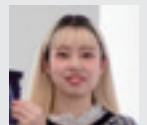
最優秀賞 亀井さんの作品「かみあつまい」

実行委員長のコメント



デザイン工学部
デザイン工学科 4年
山崎 絵理さん

展示物を見て、触れて、聞いて、デザインの魅力を全身で感じてもらいたい！そんな思いで卒業展を作り上げてきました。展示はもちろん、会場での企画や配布冊子、Web・SNSなどのデジタルコンテンツを通して、お楽しみただけであればうれしいです。テーマ「接点」は、コロナ禍やAIの普及を経験した私たちの世代だからこそ強く意識したものです。人やもの、そして未来の自分とのつながりを、私たち自身も模索しながら形にしてみました。その中で生まれたさまざまな「接点」が、皆様にとって新たな発見につながっていただければ幸いです。本展示は、多くの方々の支えによって実現しました。心より感謝申し上げます。



デザイン工学部
デザイン工学科 4年
望田 帆乃さん

今回の卒業展では、来場者の方に実際に触れていただいたり、成果物をご覧いただくことで、私たちの考えに触れてもらう体験型展示を目指しました。テーマである「接点」のもと、卒業が来場者と私たちをつなぐ場となり、新しい視点や考えに触れる機会になるよう、空間づくりからさまざまな企画を考えました。卒業要件には含まれていない中でも、多くの4年生や先輩・後輩が熱意を持って参加してくれたことで、展示を作り上げることができました。私たちが4年間で培ってきたものづくりへの思いが、少しでも伝わっていれば幸いです。また、私のやりたいことに賛同し、一緒に委員長をやらうと声をかけてくれた山崎さんにも感謝しています。

実行委員長のコメント



建築学部建築学科 4年
齊藤 孝輔さん

実行委員長を引き受けるにあたり、最初は不安でしたが、今はやり遂げた達成感でいっぱいです。過去このような役割を担う経験がなかったため、12研究室・計24人もの実行委員をまとめるリーダー

としてやりきれるかどうかが、当初は戸惑いもありました。しかし、いざ動き出すと「これをやりたい」と自ら手を挙げてくれる頼もしいメンバーばかりで、仲間に助けられながら自然とチームが回っていききました。

特に苦労したのは、マニュアルどおりにはいかない現場での判断です。搬入や撤去の作業では、実行委員だけでなく出展者全員に協力を仰ぎ、「イベントは参加者全員で作上げるもの」という意識を共有できたことは大きな達成感につながったと思います。

当日はハプニングもありましたが、信頼できる仲間たちが現場を支えてくれました。この経験と直面した課題をしっかり後輩たちへ引き継ぎ、来年のArchi Festaがさらに良いイベントになることを願っています。

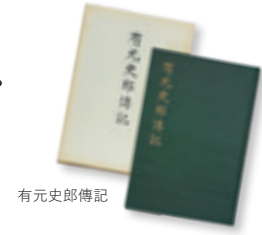


「有元史郎の生涯」
はこちら

創立100周年 記念連載 5/10

創立者有元史郎の軌跡を巡る

創立100周年である2027年まであと1年となります。
第5回は、広島県尾道、西城町、岡山県津山におけるエピソードや最新の調査報告を紹介します。



有元史郎傳記

尾道を巡る

有元史郎生家

有元史郎は1896（明治29）年、広島県尾道市土堂町に生まれました。有元家は江戸時代に津山から倉敷を経て尾道に移り住み帆布製造販売の船道具商を成功させ、祖父周二郎[※]の代には資産家となっていた。1883（明治16）年12月に出版された『備後の魁』には、船道具商として有元周二郎が土堂町中浜通りで店舗を営んでいることが記載されている。港から近い中浜通りは乾物屋や船具関係の店舗が立ち並び、尾道で一番の賑わいを見せており、この通りには富豪しか店舗を出せなかったと伝わっ



位置関係を表すイラストマップ

ている。1898（明治31）年に発行された『日本全国商工人名録』による尾道市商業者の欄には、第37位に父である有元益太郎が542円の納税をしている旨の記載がある。



備後の魁（各所国産の手引）

尾道尋常小学校

史郎が5歳の時に土堂町の店舗を引き払い祖父周二郎の家に引っ越すが、7歳の時に周二郎が死去。8歳で尾道尋常小学校（旧土堂小学校）に入学。小学校では母親の遠縁にあたるとされる土屋丈之助先生（後の第2代校長）の指導を受けた。先生は史郎に父母のような愛情を注ぎ、大いに慰撫し励まし曲がりそうな子供心を真っ直ぐ導いてくれた篤志家であったと伝記には記されている。

※周治郎と記載された文献もあり



尾道の山側から海を望む尾道尋常小学校（旧：土堂小学校）

西城町を巡る

西城尋常高等小学校

西城尋常高等小学校（現：西城小学校）



史郎が14歳の時に、祖母の実家である西城町の土肥家に引っ越し、西城尋常高等小学校1年次に編入した。当時、瀬戸内海の高瀬拠点である尾道に比べると西城町は、尾道から出雲へ抜ける出雲街道上の寒村であった。西城町での生活は2年に満たなかったが、史郎にとっては自然豊かな山間部での生活と人々との交流は生涯にわたって心に残っていたように、結婚後も夫人を連れて訪問し恩師や旧友と交流する記録が残されている。在校時は毎年学業優秀賞をもらっており優秀であったとされ、恩師の穴戸恵作先生がのちに「史郎は、秀才児であり受持教師として自分には常に誇りを感じていた」と述べている。

一方ガキ大将との喧嘩話や、同級生にいたずらをしかけていたなど、やんちゃな逸話も残っている。



西城町近景



史郎クラスメイト卒業写真（1911年）

現存する史郎が居住していた元土肥家

蓮照寺中山道元住職（95歳）
ヒアリング内容

「土肥家のことは覚えている。家は当時のまま商店街の一角にある。子供の時、家の前を通ったし、土肥家のお爺さんと一緒に大山に登したこともある。土肥家は商店街の中

の商家で何を売っていたか覚えていない。土肥家は途中で引っ越してしまいい今は違う人が住んでいるが、家の一部は史郎がいた時と同じ家屋である。自分の父親が年齢的に史郎と同じ時代の人で小学校は同じ西城尋常高等小学校だった」



祖母の実家である元土肥家付近（現存）

津山市を巡る

津山は、有元家にとって祖先の郷土であり、美作菅氏の本拠地である勝田郡奈義町付近の主要都市であった。史郎は不幸にして亡くなる1年前の1937（昭和12）年8月に、当初津山で計画されていた工業学校建設に対し、その手腕が期待され第4代津山市長として津山市政に取り

組んだ。在職2か月という短期間であったが、史郎最晩年に津山で実現しようとした技術研鑽^{けんけん}の学校を建設したいという想いは、市長就任時の挨拶として掲げた9つの方針の一つ「学校並びに教育に関する方針」で述べられている。



史郎市長就任時の津山市役所（現：津山郷土資料館）

文責：経営戦略室（創立100周年記念事業・編集担当）鈴木健一
【参考】松尾小三郎編（1939年）『故有元史郎伝記』有元伝記編纂所／大倉直（2024年）『有元史郎と芝浦工業大学日本近代化の夢を信じた工学者たち』小松書館／島岡佐七郎編（1883年）『備後の魁』農工商技藝／鈴木喜八・関伊太郎編（1898年）『日本全国商工人名録』第2版／坂根嘉弘（2021年）『尾道の経済と尾道商業会議所（一）』広島修道大学学術リポジトリサイト／『西城小学校誌』／篠崎進（1985年）『日本の歴代市長第三巻 歴代知事編纂会／大倉徹彦（1994年）『岡山県歴史人物事典』岡山県歴史人物事典編集委員会／津山市（1985年）『津山市史第七巻現代II』津山市役所

「カメラで撮影された空間の
「意味」を認識し、
デジタル化するシステムを
作りたい」

パトハック・サーサク准教授が主宰する知能センシングシステム研究室は、画像センシングや深層学習などを用いて実空間を、その状態や特徴を「意味」まで含めてコンピュータに認識させる研究に取り組んでいる。いわば「環境を見て、感じて、考える」システムの構築、あるいは「物理世界を理解できる生成AI」の開発を目指している。実現すればさまざまな社会的ニーズに応え得る、有用な技術になることは間違いないだろう。

「研究で重きを置いているのは空間を「意味的に」捉えること」

パトハック・サーサク准教授は大学2年生の時、所属していた部活動でカメラを用いた自律移動ドローンの研究プロジェクトに参加したことがきっかけで、画像センシングに興味を持った。画像センシングとは、簡単にいえばカメラで撮影された対象の画像データを解析し、その状態や特徴などの情報を読み取る技術である。

「このプロジェクトを通して、人間は画像を一目見ただけでさまざまな情報を処理できるのに、コンピュータにはそれが簡単にはできないということを知り、初めて実感しました。私たちは1枚の写真から、そこに写っている人や物の位置関係、空間の形状、シチュエーションなどをすぐに理解できます。さらには『なぜ撮影者はこの写真を撮ったのか』といったバックグラウンドまで、ある程度分かることもあります。こうした情報処理能力をコンピュータやロボットにも持たせたいと思いました」

その後、大学3年次にインターンシップで日本を訪れ、自動運転を実現させるための技術としての画像センシングの研究に携わったことで、研究者の道へ進むことを決心しました。そんなサーサク准教授が現在、自身の研究において重きを置いているのは、実際の空間を「意味的に」捉えることだ。

「近年は生成AIによって、文書やPDFなどのデジタル情報は容易に処理、検索できるようになりました。しかし、工場や工事現場、あるいは災害の被災地などの実空間

SIT Academic Column

工学部 先進国際課程 担当 /
知能センシングシステム研究室
パトハック・サーサク
准教授



PROFILE

インド工科大学マドラス校で学士・修士を取得後、来日。東京大学博士(工学)学位を取得。東京大学特任助教、中央大学助教などを経て、2025年4月より芝浦工業大学准教授に着任。専門は、画像処理や深層学習を用いた知能センシングであり、FA財団論文賞やJRM Best Paper Awardなどの論文賞を受賞。現在は民間企業や他大学との共同研究を通じ、工事現場・産業環境などの実環境でのロボットの活用やリモート点検・管理のための研究を推進している。



の情報はまだそのようには扱えず、人が現場に足を運んで状況を確認する必要があります。人的にも時間的にもコストがかかってしまいます。そこで私は、実空間の画像から3次元の地図を作成しただけでなく、その空間を「意味」まで含めて認識し、その上で『〇〇を見せてください』『××はいくつありますか?』『昨日と変わったところはありますか?』といった質問に答えられるようなシステムの研究を進めています。これにより、現場の遠隔確認や作業の効率化につながると考えています」

どんな環境にも対応できる 画像センシングを目指す

サーサク准教授が「現場」にフォーカスするようになった背景には、大学院の博士課程で橋梁点検の国家プロジェクトに参加した経験がある。

「このプロジェクトはいくつかの企業と共同で行っていたのですが、学会などで企業の方々とお話しした際に、現場を遠隔から見るだけではなく、意味的に扱える技術が求められていると感じました。例えば日本の社会インフラは高度経済成長期、すなわち1950年代後半から70年代前半に整備されたものが多く、老朽化が深刻な上に改修工事に必要な人手も不足しています。私が行っている画像センシングの研究は、そうした課題をクリアし、社会的ニーズに応え得るものだと思います」

画像センシング技術は急速に発展しているが、その中には特定の環境下でしか使用できない技術も多々ある。例えば屋内で

「研究は楽しい!」と 心から感じてもらいたい

サーサク准教授が担当教員を務める知能センシングシステム研究室の目標は、大きく分けて二つある。一つは実際の現場で役に立つ研究を進めることだ。

「そのためには、企業と連携しながら、本当に必要とされている

技術を開発していくことが肝要だと考えています。現在もいくつかの企業と共同研究を行っており、今後はさらにその範囲を広げていく予定です。最近では『DX』という言葉がよく使われていますが、特に工場や工事現場といった実環境のDXに貢献するとともに、最終的には10年後に当たり前に使われているような、標準的かつ普遍的な技術を確立することを目標

SIT Academic Column

は使えるけれど屋外では使えない、またはその逆などだ。そのような制限がかかると、いかに優れた技術であっても現場への導入に支障が出てしまう。そのためサーサク准教授は、研究において「どんな環境にも対応できること」を大事にしている。

「特に深層学習においては、学習データや環境が変わると精度が落ちやすいという課題があります。そのため私は、できるだけ一つの現場に依存しない、一般化可能な手法を編み出すことを目指しています。具体的には、センシングのすべてを深層学習に任せるのではなく、幾何や物理に基づいた処理と組み合わせたハイブリッドな方法を用いています。例えば工事現場では、物体認識は深層学習で行い、地図生成は幾何的に行います。さらに、複数の視点から同じ物体を見ることで、認識の精度を上げる工夫もしています」

にしています」

もう一つ、そしてより重要なのが、研究室に所属する学生の成長だという。

「私の研究室を選んできた学生には『研究は楽しい!』と心から感じてもらいたいし、将来研究者になることも選択肢の一つとして考えてもらいたいと思っています。自分のアイデアが形になって、実社会の中で使われているのを見ることで得られる達成感は、何ものにも代えがたいからです。私自身は、学生時代は授業の内容が実社会とどのようにつながっているのかわからず、悩むことがよくありました。だからこそ、学生には研究の背景や意味も含めて理解してもらえようように説明することを心がけています。分からないことがあればなんでも質問してほしいし、同じ質問を何度でも構いません。何度でも説明します。加えて、学生には視野を広く持つてほしいです。世界はとても広いので、研究に限らず新しいことに対して常にオープンな姿勢であり続け、いろいろな経験を積むことで自身の可能性も広がられると信じています」





しばうら人

創立以来10万人を超える
芝浦工業大学の卒業生。
現在も日本はもとより
世界各地で活躍しています。
エンジニアはもちろん、
さまざまな方面で活躍する
卒業生を紹介します。



学会発表の様子

もっと早く計算できるようにするのは、「ユーザーに使ってもらうには、どういう組み立てがよいのか」など、発想が浮かぶと尾崎先生に相談し、そのまま夜9時まで議論することもしばしば。ディスカッションを重ねるうちにアイデアがブラッシュアップされていくことが多く、とても貴重な時間を過ごしました。これも学生室の隣に教員室があり、すぐに話ができる芝浦工大の環境があったから。学生室と教員室が別棟にある大学ではゼミでしか先生に会えず、こうしたディスカッションは難しいと思います。しかも芝浦工大には世界で活躍されている先生方が多く在籍しており、先生方から受ける薫陶は学生にとって何物にも代え

研究の面白さは、今まで「できなくて当たり前」とされていたことができるようになること。できた瞬間は本当にワクワクします。そして、学会などで他の専門家とディスカッションし、自分のテーマがどんどんブラッシュアップされていく過程が楽しくてたまりません。また、大学で勤務していると、一般企業よりコミュニティが広いと感じます。就職

**応用数学と他分野とのコラボで
社会的課題を解決したい**

難しい財産になります。こうして研究が楽しくなった私は修士課程へと進学。修士課程修了前に一度就活してみたものの、「もっと研究がしたい」という気持ちもあり、狙いを定めた2つの企業に採用されたら就職を、不採用なら博士課程へ進学すると決めました。結果的に博士課程へ進学し、修了後は理学研究所や九州大学情報基盤研究開発センター、そして現在の勤務先である早稲田大学理工学術院総合研究所へと、自然な流れで研究者としてのキャリアを歩むようになりました。

ともすれば「狭き門」と考えられている研究職。システム理工学部数理科学科で応用数学を学び、大学院理工学研究科の修士・博士課程を経て、研究者となった寺尾剛史さんは、「大学入学時は自分が研究職に就くとは思いませんでした」と振り返る。キャリアの流れに身を任せ、研究者になったと語る寺尾さんに、現在までの道のりを伺った。



PROFILE

寺尾 剛史さん
Takeshi Terao

早稲田大学 理工学術院総合研究所
システム理工学部数理科学科
2015年卒業
理工学研究科 修士・博士課程
2020年修了

**「研究者なんて自分には無理」と思う人に
未来の道筋を示したい**

**学生生活を一変させた
研究室への配属**

私は佐賀県出身で、周囲は地元で多い環境でした。しかし、「人生で一度ぐらい関東で暮らしてみたい」と芝浦工大へ進学。数理科学科を選んだのは、他の科目よりも数学が得意だったためで、数学系なら理工系に比べて実験が少なく、大学生活を自由に満喫できるイメージを抱いていたからです。

入学後はアルバイトでお金を稼いで、寝る間も惜しんで遊ぶ日々。クルマを購入後は、友人と共によくドライブにも出かけました。この時

タイの動物園にて



研究室でのイベントの様子

員はもちろん、学生や他大学の教員など、国境を越えたつながりがあります。

現在はあるプロジェクトの実働部隊としてプログラミングや計算などを行い、研究に専念できる環境に身を置いています。将来は学生を指導し、新しい研究者を社会に輩出していきたい。それも「研究者なんて自分には無理」と思っている学生に道を示したい。世界でも優秀な研究者は優秀な後進を育てているもの。私自身も大学院生時代、次から次へと湧き出るアイデアをよく尾崎先生に聞いていただきました。もちろん、先行研究があったり、非効率な研究手法だったり、アイデアのままで終わるケースがほとんどでしたが、学生のたわごと根気強くつきあってくださったその姿勢に、今も尊敬の念が止みません。

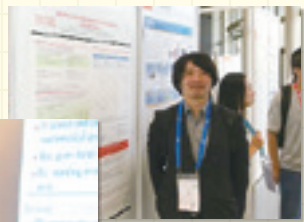
さらに応用数学の考えを生かして物理学・工学・化学などとコラボし、社会的課題を解決していきたい。現実社会ではコラボしないことには先に進めない課題が少なくありません。そのため、他分野の論文を読み込み、共にチャレンジしていきたいです。

期に一生分ぐらい遊びましたが、3年次後期に研究室に入ってからガラリと変わり、勉強と研究がメインの生活になりました。配属されたのは、尾崎克久先生の数値解析研究室。計算機などを使い、プログラミングも駆使して応用数学を追って行く研究室で、「純粋数学は自分には難しい。応用数学なら社会にダイレクトに役立つ研究ができるのでは」と考えての選択でした。その一方で、「就職の際にプログラミングができた方が有利だ」という思いもあり、当時はまさか自分が研究職に就くとは夢にも思っていませんでした。

**博士課程修了後、
自然な流れで研究職に**

研究室ではプログラミングにも数学論文の読み込みにも苦労しましたが、もっとも大変だったのは、自分なりの研究材料を探す作業でした。それまでは答えのある課題を与えられてひたすら考える作業でしたが、研究室ではゴールがどこにあるのか分からない状態でした。「こうすれば

現在、芝浦工大で学ばれている学生さんには、「勉強でもサークル活動でも何でもいから、やり切ることが重要」だとお伝えしたいです。私自身は学部時代に遊び尽くしたので、大学院では研究に集中することができました。何事もやり切れば、卒業後に後悔することはありません。これから大学を目指す高校生の皆さんには、ぜひ大学教員がどのような研究に取り組んでいるかを見ていただきたいと思います。芝浦工大は就職に強いだけでなく、研究者という道も拓けていることを一人でも多くの方に知っていただきたいと思っています。



学会発表の様子



ACTIVE STUDENTS!

活躍する芝浦工大の学生たち

#デザイナーとエンジニアとの共創

#学生の力で大学をより良くする

デザイン工学部 デザイン工学科
ロボティクス・情報デザイン系 4年

亀田 羽流さん ※所属・学年は取材当時

「しばよこ」がつなく

デザインとエンジニアリング。

学生の力で芝浦工大を

より魅力的な環境へ



デザイナーとエンジニアが共創するサークル「しばよこ」の立ち上げ

芝浦工業大学デザイン工学部の亀田さんは、学部やコースの垣根を越えてデザイナーとエンジニアが交流し、共に切磋琢磨するサークル「しばよこ」を創設し、代表を務めています。創設のきっかけは、亀田さんが将来デザイナーを目指すことを決めた2年生の末頃に感じた、就職活動への課題感でした。卒業生との交流などを通じ、就職活動の早期化に対応するためには、学内のデザイナー志望の学生とエンジニア志望の学生とが早期につながり、共に手を動かせる場所が必要だと痛感。そこで、エンジニア側の視点から同じ志を持っていたシステム理工学部の高田さんと意気投合し、2025年の3月から活動を本格化させました。

1年目で3000人超。圧倒的な需要を形にする行動力

「知ってもらえれば絶対に需要がある」という確信のもと、地道なチラシ配りや授業での広報活動を徹底した結果、創設1年目でメンバー

数は約360人、運営スタッフも約50人を抱える大規模な団体として好スタートを切りました。

主な活動内容は、学生同士でスキルを教え合う「講義」、学生の成果物に対し企業からも講評を受けられる「ハッカソン」、そして学年や学部の壁を越えた「交流会」の3本柱で構成。授業のみでは決して得られない経験として、互いに高め合える機会になっているといいます。特に、外部企業のオフィスを借りて開催した交流会には150人近くが集まるなど、学内にこれまでにない新しいつながりを生み出しています。

スタートアップ企業さながらの組織運営と試行錯誤

急成長する組織を支える裏側では、多くの試行錯誤がありました。当初は少人数での運営に限界を感じたことから、組織を「財務」「教育」「広報」など7つの部署に細分化し責任の所在を明確にするなど、仕組み化に注力しました。また、代表2人で意見がぶつかることもありましたが、それもお互いの熱量を高め、組織をより良くするためのプロ

セスとして前向きに捉えてきたとのこと。「学生が自発的に動き、誰かの一言で組織が柔軟に変わっていく『スピード感』を何よりも大切にしている」と亀田さんはいいます。

芝浦工大のブランド力を学生の力で高めたい

卒業後は芝浦工業大学の大学院へ進学。後輩への引き継ぎを進めながらも、さらなる活動の発展を支援していく考えです。亀田さんの大きな目標は、「しばよこ」があるから芝浦工大に入りたい」と言われるような環境を作ること。「自分がきっかけで誰かが成功できればうれし」と語る亀田さんの視線は、個人の活動の枠を超え、大学全体の魅力を高める未来を見据えています。

最後に、後輩たちへのメッセージとして、「僕たちが作ったこの環境を、自分のやりたいことのために存分に利用してほしい」と語ってくれました。亀田さん自身も「決して一方的な環境や仕組みにならないよう整えつつ、自らも常に成長していきたい」といいます。亀田さんとはしばよこの今後ますますの発展が期待されます。

一人の熱意から動き出した物語



2020年頃から存在していたものの、コロナ禍の影響もあり、十分な活動ができない状況が続いていた女子バスケットボール部。2025年6月、一人の学生の働きかけによって本格的な再始動を果たしました。現在は2026年の公式大会出場を目標に、組織としての土台作りを進めています。

Q 芝浦工大で女子バスケット部を再始動させたきっかけは？

私は約15年間バスケットを続けてきており、大学でも部活動として競技を続けたいと考えていました。しかし当時は活動がほとんど行われておらず、連絡を取ることもできない状態でした。男女混合のバスケットサークルにも参加しましたが、やはり「部活動としてバスケットに取り組みたい」という思いが強く、自分から動いて女子バスケット部の活動を再開させることを決めました。1年生の頃よりも学内でのつながりが増えていたこともあり、「やってみよう」と一歩踏み出す後押しになったと感じています。

Q 何もない状態からの再スタートで、苦労した点は？

運営に必要な「基本情報の収集」が最初の壁でした。顧問の先生がどなたか、書類をどこに出すべきか、体育館をどう確保するかといった基本情報すら不明な状況だったので、運営の仕組みを知ることから始まりました。交流のあった男子バスケット部のマネージャーにも協力してもらい、運営のノウハウを教わりながら、手探りで一つずつ体制を整えていきました。

Q 現在はどのように活動していますか？

23人の部員が在籍しており、明るく仲の良い雰囲気で行動しています。「授業で行けない」というケースも多いため、活動日を週3回設定し、一人ひとりがスケジュールに合わせて参加しやすい環境を整えています。また、部員のモチベーションを維持するため、SNSを通じて他大学へ積極的に働きかけ、練習試合の機会を確保しています。2026年の公式大会出場に向け、日本バスケット

Q 今後の目標を教えてください

まずは2026年の大会に出場し、そこで結果を残すことです。ただ、活動が一时的なもので終わってはいけないと考えています。次世代の部員たちが迷わず活動を継続できるように、組織としての土台をしっかり固めていくことが、今の私の大きな役割だと思っています。

葭内 七海さん ※学年は取材当時

#女子バスケットボール部

#一からの再始動

工学部 物質化学課程 環境・物質工学コース 2年

芝浦工業大学

2026年度 入学者選抜志願者数報告

芝浦工業大学大学院 理工学研究科

専攻	募集	志願者数	合格者数
電気電子情報工学専攻	200	259	247
材料工学専攻	50	64	63
応用化学専攻	40	71	70
機械工学専攻	140	175	171
システム理工学専攻	150	189	179
国際理工学専攻	10	24	24
社会基盤学専攻	40	45	43
建築学専攻	170	216	213
理工学研究科 修士課程 計	800	1,043	1,010

専攻	募集	志願者数	合格者数
地域環境システム専攻	15	18	17
機能制御システム専攻	18	20	20
理工学研究科 博士(後期)課程 計	33	38	37
大学院 合計	833	1,081	1,047

芝浦工業大学附属中学高等学校

	募集	志願者数	合格者数
中学校	160	1,024	258
高等学校	172	381	238

芝浦工業大学柏中学高等学校

	募集	志願者数	合格者数
中学校	165	2,461	591
高等学校	120	1,161	396

2026年度学士課程の一般入学者選抜においては、志願者数は全体で53,158人となり、前年度(38,507人)に比べて138.0%と、過去最多を記録しました。

大学入学共通テスト利用方式(前期)においては24,965人の志願者を集め、前年度比181.2%(+11,191人)と大幅に増加しました。本学独自の試験問題を用いる前期日程(A/B)方式、全学統一日程(A/B)方式、後期日程方式の合計も前年比114.0%(+3,458人)と堅調に増加しています。これらの要因として、2026年度入試から大学入学共通テスト利用方式(前期/後期)において6教科8科目型を新設したことにより、国公立大受験者を含む多様な受験者層を取り込むことができたことが、志願者層の大幅な増加につながったものと考えています。

さらに、2026年4月から分野横断型の学びを通じて幅広い専門知識の修得を目指す「課程制」を導入するシステム理工学部においては、入学定員を485人から705人へ拡大したが、その増加率を上回る志願者数の伸びを記録し、前年度比184.7%(+7,287人)と大きく増加したことも全体の志願者増に大きく寄与しています。

芝浦工業大学 学部

一般入試(大学共通テスト利用方式(後期)除)

工学部	募集	志願者数	合格者数
機械工学課程(基幹機械コース)	73	3,799	748
機械工学課程(先進機械コース)	73	2,697	562
物質化学課程(環境・物質工学コース)	66	2,310	580
物質化学課程(化学・生命工学コース)	66	2,749	697
電気電子工学課程(電気・ロボット工学コース)	66	2,894	498
電気電子工学課程(先端電子工学コース)	66	2,185	418
情報・通信工学課程(情報通信コース)	66	2,208	403
情報・通信工学課程(情報工学コース)	73	3,481	605
土木工学課程(都市・環境コース)	66	1,835	469
工学部 計	615	24,158	4,980

システム理工学部	募集	志願者数	合格者数
情報課程(IoTコース)	38	1,270	240
情報課程(ソフトウェアコース)	38	1,932	237
情報課程(メディアコース)	38	1,272	214
情報課程(データサイエンスコース)	38	1,249	226
機械・電気課程(機械・電気コース)	57	1,636	334
建築・環境課程(建築コース)	45	1,365	183
建築・環境課程(環境・都市コース)	36	1,486	228
生命科学課程(生命科学コース)	38	1,637	337
生命科学課程(医工学コース)	38	1,137	287
生命科学課程(スポーツ工学コース)	38	625	154
数理科学課程(数理科学コース)	43	1,911	578
システム理工学部 計	447	15,520	3,018

デザイン工学部	募集	志願者数	合格者数
デザイン工学科(社会情報システムコース)	32	1,026	217
デザイン工学科(UXコース)	32	1,280	144
デザイン工学科(プロダクトコース)	37	1,617	105
デザイン工学部 計	101	3,923	466

建築学部	募集	志願者数	合格者数
建築学科 APコース(先進的プロジェクトデザインコース)	17	1,254	121
建築学科 SAコース(空間・建築デザインコース)	67	3,982	478
建築学科 UAコース(都市・建築デザインコース)	67	3,319	364
建築学部 計	151	8,555	963

※募集のうち大学入学共通テスト利用方式(後期)については、学部単位での募集のため上記募集数には含まれない

一般入試(大学入学共通テスト利用方式(後期))

学部	募集	志願者数	合格者数
工学部 計	18	415	118
システム理工学部 計	11	370	137
デザイン工学部 計	3	101	40
建築学部 計	5	116	21
合計	37	1,002	316

大学	募集	志願者数	合格者数
大学 合計	1,351	53,158	9,743

大宮キャンパス創発棟の竣工式・お披露目会と、卒業生寄贈ダットサンの除幕式を開催

4月22日、大宮キャンパスで創発棟の竣工式と、完成を記念したお披露目会、卒業生から寄贈を受けて2号館での展示が決まったダットサン211型セダン(1958年)の除幕式が行われました。お披露目会には村井千夏子氏(村井英樹衆議院議員名代)、清水勇人さいたま市長や企業・金融機関の政財界、全国の大学・学校関係者など約320人が出席しました。

この教育・研究設備を見て回りました。また2号館では卒業生の佐々木徳治郎氏(全日本ダットサン協会会長、1965年工学部機械工学科卒業)から寄贈を受けた「ダットサン211型セダン(1958年)」の除幕式が行われました。佐々木氏のほか、鈴木見理事長、山田学長、澤田大宮キャンパス長、神永颯太自動車部主将の5人で

除幕が行われ、佐々木氏、澤田大宮キャンパス長から挨拶がありました。佐々木氏は「1台でも多くダットサンを動態保存することが私の使命。工学を学ぶ学生に貴重な機械遺産を感じてもらいたい」と述べました。ダットサン211型セダンは2号館1階のロビーに展示され、誰でも見学が可能です。

会の冒頭には、これまで各活動で協定を結んで連携してきたさいたま市との、包括連携協定の締結式を行いました。続いて行われたお披露目会では、鈴木健夫理事長、山田純学長からの挨拶、ご来賓の方々からの祝辞に続いて、学校法人のキャンパス整備担当理事である澤田英行大宮キャンパス長から、「創発棟」の設計思想と建物概要について説明しました。



さいたま市との包括協定締結式



ダットサン211型セダン(1958年)除幕式



ロビーに展示された和紙アートを見る見学者

芝浦工業大学

SIT賞受賞者紹介〜それぞれの挑戦と成長〜

化学を楽しむ心が
研究を前に進める

本間晴香さん

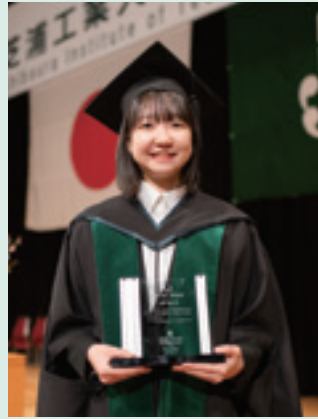
(理工学研究科応用化学専攻 2年)

本間晴香さんは、有機電気化学研究室(指導教員:田嶋稔樹教授)に所属し、有機フッ素化合物の新たな合成手法の開発に取り組んできました。学部4年次には国際ジャーナルへ筆頭著者として論文を掲載するなど、これまでに5編



の論文が高い評価を受け、質・量ともに優れた研究成果を上げています。有機フッ素化合物は医薬品や機能性材料に広く用いられる一方で、その合成には危険性の高い試薬が必要でした。本間さんは、安

全かつ安価なフッ素源を用いた新たな合成手法の開発に挑戦し、持続可能な技術の確立を目指しています。受賞にあたり「化学を楽しみ気持ちを大切に、今後も研究を通じて社会に貢献していきたい」と抱負を語りました。



挑戦を重ねて広がった
自分の可能性

野口慧斗さん

(工学部機械機能工学科卒業生)

野口慧斗さんは、在学中にアメリカンフットボール部において、2部リーグ16チームから1人のみ選出される優秀選手賞を受賞し、部の発展に大きく貢献しました。身体能力や筋力の強化に加え、食生活やチームワークの向上など、多角的に自己を磨き続けた成果が評価されています。また、海外派



遣プログラムを利用し、ドイツの大学でのプロジェクト活動に参加するとともに、現地チームに所属し9カ国の選手と競技に取り組みました。異なる文化や価値観に触れる中で、多様性を受け入れる重要性と新たな視点を学びました。現在は電力会社で設備の維持修繕工事に携わり、学生時代に培った力を発揮しています。受賞にあたり「今後も挑戦を続け、自分の可能性を広げていきたい。在学生の皆さんも一歩踏み出す勇気を大切にしてほしい」と語りました。

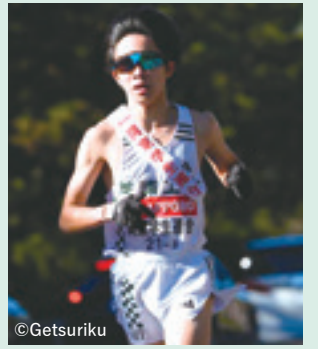


夢の箱根路を走った
努力の四年間

横尾皓さん

(システム理工学部環境システム学科 4年)

横尾皓さんは、陸上競技部に所属し、主将としてチームを牽引しながら第102回東京箱根間往復大学駅伝競走に出場し、本学3大会ぶりの箱根ランナーとなりました。競技と学業の両立を高いレベルで実践してきた姿勢が評価されています。幼い頃から憧れていた舞台



を目指し、日々の厳しい練習に真摯に取り組み、競技力の向上に努めてきました。主将として迎えた一年は多くの困難に直面しながらも、「箱根に出る」という強い思いをチームの中心で示し続け、予選会では過去最高となる18位を記録しました。本戦では多くの声援に支えられ、力走を見せました。受賞にあたり「夢の舞台に立てたことは大きな喜びです。今後も競技を続け、日本選手権出場を目標に挑戦を続けていきたい」と語りました。



2025年度卒業生 就職・進学実績 速報

2025年度卒業生の就職・進学実績について、2026年5月1日時点速報値をご報告いたします。

就職率(大学全体)

99.4%

大学院進学率

50.0%

就職率(学部卒)

99.8%

女子就職率(学部卒)

100%

就職率(大学院卒)

98.9%

女子就職率(大学院卒)

99.2%

※就職率:就職希望者に対する就職した者の割合

東京都職員採用合格者 学科・専攻内訳/技術職内訳

技術職内訳	合格者数	学科・専攻内訳	合格者数	
機械	6	工学部	機械工学科	2
電気	4		機械機能工学科	1
土木	12		材料工学科	2
建築	2		応用化学科	1
			電子工学科	1
		土木工学科	7	
		システム理工学部	環境システム学科	4
		デザイン工学部	デザイン工学科	3
		大学院 理工学研究科	建築学専攻	1
			社会基盤学専攻	2
		総計		24

就職先上位企業・団体ランキング
(学部卒+大学院修了)

就職先	人数	うち 女子数
日本電気株式会社	35	5
本田技研工業株式会社	27	2
東京都庁	24	10
三菱電機株式会社	20	1
東日本旅客鉄道株式会社	19	3
大成建設株式会社	16	1
株式会社長谷工 コーポレーション	12	3
清水建設株式会社	12	2
トヨタ自動車株式会社	11	2

芝浦工業大学附属中学高等学校

高1生向けキャリア教育として 「コマツ出張授業」を開催しました

コマツ株式会社小松製作所による「コマツ出張授業」が2月17日、高校1年生を対象に開催されました。本イベントはキャリア教育の一環として実施されたもので、エンジニアを志す生徒に向けて、同社の事業内容や取り組み、またエンジニアとして働くことについての講演が行われました。講演の最後には「働く中でやりたいこと」は数多く見つかる。これから社会人になる皆さんには、まず「好きなこと」を見つけてほしい」とのメッセージが贈られました。

講演後は場所を校庭に移して、生徒たちは展示された小型の電動ショベルの構造や油圧の仕組みなどについて、実際に機械に触れながら学びました。昼休みには中学1年生から高校3年生までの生徒が集まり、楽しそうに電動ショベルに触っていました。

柴田邦夫校長は、「本校の特色である、ものづくり、体験型学習の一環。エンジニアの話を通じて、学問と実社会との結びつけに役立ててほしい」と語りました。

参加した生徒からは、「ショベルの仕組みは、普段学んでいる物理で理解できる内容も多く、実生活とのつながりを実感できて面白かった」「エンジニアは堅苦しそうないメージがあったが、エンジニアとして働く人の話を聞いてすごく楽しそうに感じた」との感想が寄せられました。ものづくりが好きな生徒が多い附属中高ならではのイベントとなりました。



プロ野球日本ハムCBO栗山英樹さんが 「キャリア講演会」を実施しました

プロ野球・北海道日本ハムファイターズのCBOで前野球日本代表監督でもある栗山英樹さんをお招きし、中学生対象のキャリア講演会を1月13日に行いました。

講演では、監督として日本代表を率い、14年ぶりの世界一に導いたワルド・ベースボール・クラシック(WBC)の経験をもとに、強いチームに共通する特徴や、個々の選手が果たす役割の重要性について語られました。特に、チームの中心として活躍した大谷翔平選手(現・ロサンゼルス・ドジャース)の姿勢や行動を例に挙げながら、周囲に良い影響を与える存在の大切さを紹介しました。

また、長年にわたり野球界に身を置き、多くの選手を指導してきた経験から、「最後まで諦めずに取り組むこと」が成長の原動力になると強調。さらに、「自身の学生時代やプロ野球選手としての現役生活を振り返りながら、「何かを始めるのに遅いことはない」「人はそれぞれ違う存在であり、他人と比べる必要はない」「やらなかったことを後悔しない選択をしてほしい」といったメッセージを、中学生一人ひとりに向けて力強く伝えました。

講演に先立って壇上から降りて生徒一人ひとりに声をかける姿には優しいお人柄が垣間見られました。生徒たちは、世界の頂点を経験した指導者の言葉に真剣に耳を傾け、これからの学校生活や将来を考える貴重な機会となりました。講演会の最後には、生徒会長の山本陽葵さんから御礼の花束が贈呈されました。



芝浦工業大学柏中学高等学校

令和7年度「SSH生徒探究発表会」を開催しました

2月14日、「SSH生徒探究発表会」が開催されました。本発表会は、生徒による探究活動の成果を発信する場であり、高校1、2年生を中心に151グループ・385人の生徒が取り組んできた研究成果を披露しました。

瀧澤煌さん(高校3年生)は、ホバークラフトの原理を用いたエア断震について、芝浦工業大学の教員とやり取りをしながら研究を進めました。「高校生相手であっても妥協のない高度なアドバイスをいただきました。専門用語が多く難しい部分もありましたが、やりがいがあり、良い経験ができました」と振り返りました。家族のつながりを促進する住空間について研究した坂井十和子さん(高校2年生)は、「30本近くの先

行研究や論文を読み込みました。興味も熱量も近いメンバーとお互いの不得意を補い合いながら研究を進めることができ楽しかったです。今回の発表を通して、足りない部分が見えてきたので、これからの研究に生かしていきたいです」と研究への意欲を語りました。

会場には保護者や卒業生のほか、全国から教育関係者が訪れ、テーマ設定や実験手法、プレゼンテーション能力などについて、生徒のレベルの高さを賞賛する声が聞かれました。



※学年は取材当時のものです

「第22回新聞切り抜き作品コンクール」 中学生の部 最優秀賞受賞

株式会社東京新聞社が主催する「第22回新聞切り抜き作品コンクール」(中学生の部)で伊藤来実さん(中学3年生)の作品「未来の自分を考える〜人生、100年の生き方と社会〜」が最優秀賞に選ばれました。

伊藤さんは、7か月以上にわたり毎日継続して新聞を読み、社説や投稿、ニュースなど、さまざまな角度でテーマに即した記事を収集。膨大な記事の中から適切なものを厳選し、視覚的に読みやすい工夫を凝らしながら、丁寧に仕上げました。特に、「人生100年時代、長く生きるからこそより多くのことを幅広く考えたい」という思いから将来に関する記事を4つの視点の広がりからまとめ上げた点は、審査員から高く評価されました。

本校では社会科の授業の一環として、毎年中学2年生全員が作品を制作し、応募しています。昨年の優秀賞

に続いての最優秀賞受賞について、伊藤さんは受賞の喜びとともに、「新聞を読んで考えをまとめる大切さと、自分の意見を伝える大切さを学びました」と語ってくれました。



●本校受賞者●

部	賞	氏名	学年	作品名
中学生の部	最優秀賞	伊藤来実	中学3年	「未来の自分を考える〜人生、100年の生き方と社会〜」
	優秀賞	上田怜奈	中学2年	「脱炭素社会 これからどうなる!？」
	入選	林航大	中学2年	「今も燃えている“暖かい火”と“冷たい火”」
	入選	小林和真	中学2年	「超高齢化社会への備えと課題〜人生100年時代を生き抜く〜」
高校生の部	優秀賞	高橋藏乃介	高校2年	「不確実な社会で広がるポピュリズム」
	入選	小泉恵羽	高校1年	「現代医療の課題と進歩」

※学年は受賞当時のものです